

ダイキン工業の外国語版

英語だけではなく数か国語で刊行された社史は、富士ゼロックスや、ダイジェストで味の素グループや住友化学工業など、数えるくらいしか所蔵していませんでした。今回紹介するのは、詳細な『拓く／ダイキン工業90年史』（歴史編）と、読みものの風の『継ぐ／ダイキン工業90年物語』（継承編）です。2015年（一部、2016年）に刊行されました。

その『拓く』の編集後記を見ると「グループ企業の海外で働く多くの社員たちにも、ダイキン工業の歴史を知ることによって価値観を共有し、グループとしての求心力を強め一体感を醸成することを願い、本書と



写真の上段は左から『拓く』の日本語版、英語版、中国語版、スペイン語版、下段は『継ぐ』の日本語版、英語版、中国語版、スペイン語版、トルコ語版です。

併せて「英語版」「中国語版」も制作しました。」と書かれています。

「英語版と中国語版も寄贈していただきたいのですが」と寄贈依頼の連絡をしたところ、「他の言語もありますよ」と、上の写真のような外国語版の社史を寄贈していただけました。これだけ、しっかりとした数か国語に及ぶ外国語版の社史の刊行は、あまり例がないと思います。

ちなみに中国語版の書名は『勇于开拓』（拓く）と『继往开来』（継ぐ）です。

※「开」は「開」の簡体字です。

『拓く』は、大学教授ら経済学の専門家が執筆した通史で日本語版は700ページを超える分量です。『継ぐ』は、いくつかのテーマにスポットをあてて元日本経済新聞社の石田修大氏が読みやすく執筆したものです。

（科学情報課・高田）

社

SHA

楽

RAKU

神奈川県立川崎図書館が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.68



かわとくん

2017/04

「社史室」がびじくるもびじ

「なぜ、社史をコレクションしているのですか」とよく聞かれます。その答えは、当館の年史（10年史、30年史、50年史）を紐解けばよいのですが、あまり目にする機会はない資料でしょう。『神奈川県立川崎図書館30年史』（1989年刊）をベースに要約しておきます。



開館から間もない1959年5月、商工資料室（のち産業資料室）が4階に設けられました。現在の社史室と同じ場所です。その中に「地域の産業史研究の基礎資料となるべき会社史、工場史・組合史」が、他の資料（合計約1,000冊）の中に含まれていました。これが出発点です。

昭和30年代後半には、地域という言葉が外され、県内及び全国のものを網羅的に収集するようになりました。収集範囲を全国まで広げたのは「それまでに京浜工業地帯以外の社史が相当数、自然に集まっていたという事情」などが考えられます。

1973年に「社史・労働組合史・実業家伝記目録」が刊行されます。それ以前も社史を含む目録は刊行されていましたが他の資料と混在したものでした。「これまで必ずしもまとまった資料群として表面に出てこなかった社史類が、ここにきてハッキリとコレクションとしての存在を館の内外に認知させられた」と位置付けられます。

社史類は4階で公開されてきましたが、特許資料の増加のために、昭和50年代前半から書庫に移されます。また、昭和50年代から、それまで貸出禁止であったものが、貸出可能になりました。

1984年の機構改革によって、社史（当時、約5,900冊）は、産業資料の一部という扱いではなく、特殊コレクションと明記されるようになりました。

1998年4月、科学と産業の情報ライブラリーとしてリニューアルオープンした際、4階に「社史室」が設けられ、約10,000冊を公開。その後、蔵書を18,000冊以上に増やして現在に至っています。（高田）

【速報】「社史フェア2017」開催します！

前年（2016年）に刊行された所蔵社史、約200点をまとめて展示します。今年で4年目です。

日時：6月21日（水）13時から17時

22日（木）10時から17時

23日（金）10時から17時

24日（土）10時から17時

会場は2階ホール、申込みは不要です。／詳細は県立川崎図書館のホームページなどで。

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537 FAX：044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>